

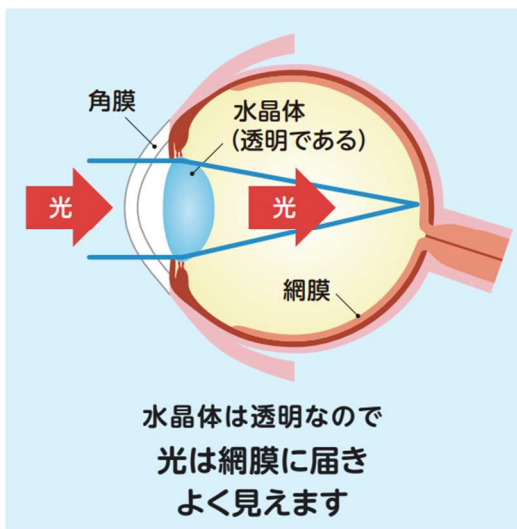
フェムトセカンドレーザー白内障手術/多焦点眼内レンズの ご紹介

当院ではフェムトセカンドレーザーを用いた白内障手術を実施しております。元々屈折矯正手術（レーシック）や角膜移植に利用されていた技術を応用させたもので、現在アメリカを中心に普及しつつあります。一方日本国内では、ごく限られた施設でしか行われていません。

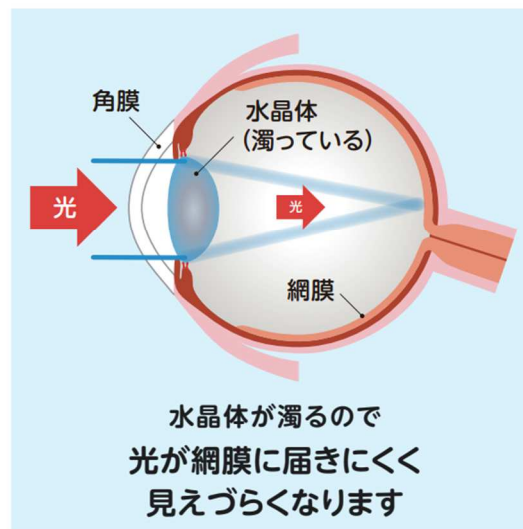
白内障とは

白内障は眼の中のレンズの役割をしている水晶体が濁り見えにくくなる病気です。そのため、ぼやけやかすみなど、さまざまな症状が現れます。加齢を原因としたものが多く、70歳以上の方ではほとんどの方に見られます。軽度であれば点眼薬や内服薬を処方することもあります。いずれも進行を遅らせることが目的であり、混濁した水晶体を元に戻すことはできません。手術が唯一の根本治療です。

健康な目



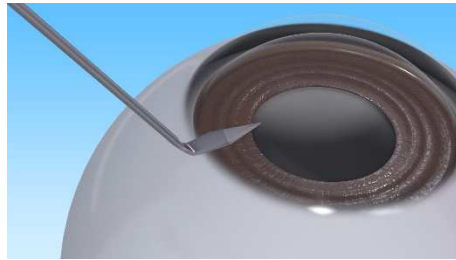
白内障の目



従来の白内障手術/手術手順

白内障の手術は、濁っている水晶体を超音波で砕いて吸引し、人工の眼内レンズを挿入します。

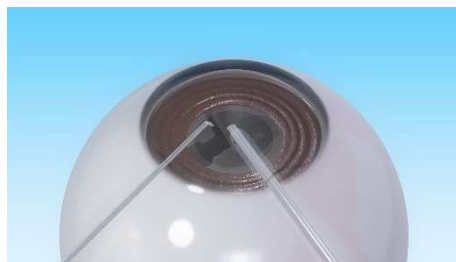
1. 手術器具の通路を作るため、角膜に2-3mmの小さな切れ込みを入れます



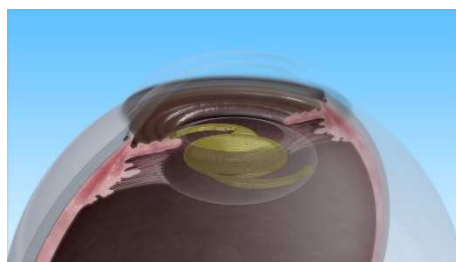
2. 水晶体の袋の上部を円状に切開します（前囊切開）



3. 円状に切開した部分から専用の機器を挿入し、超音波で粉碎しながら濁った水晶体を取り除きます



4. 吸引除去した水晶体の袋に眼内レンズを挿入して終了です



フェムトセカンドレーザーとは

フェムトセカンドレーザーは、波長 1030nm の近赤外線レーザーを、フェムト秒（1 フェムト秒は 1000 兆分の 1 秒）単位で連続照射し切開を行います。ほとんど熱を発生しないため周辺組織への侵襲が非常に少ないことが特徴です。

フェムトセカンドレーザーを用いた白内障手術のメリット

1. 手術装置に内蔵された三次元光干渉断層画像診断装置（3D-OCT）を用いて眼の構造を高精度に読み取り、最適な手術計画を設計します
2. 正確な前嚢切開を行う事で、正しい位置に眼内レンズを固定する事ができ、眼内レンズ（特に多焦点眼内レンズ）の性能を発揮しやすくします
3. 水晶体を分割することで、超音波の使用を最小限にし、眼に負担の少ない手術が可能になります

● CATALYS プリシジョン レーザーシステム

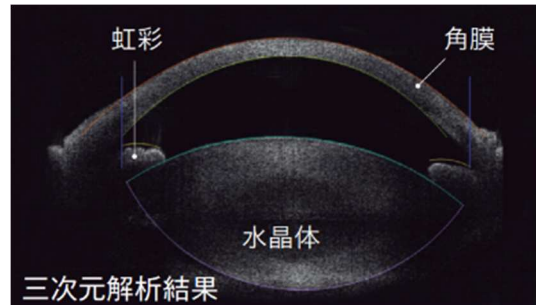
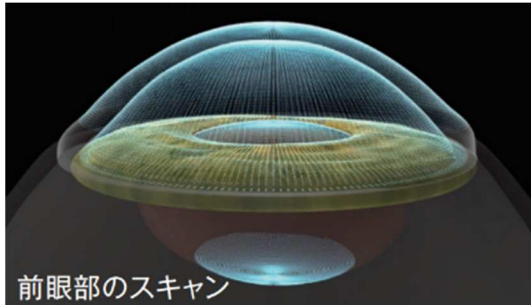
当院では米国 Johnson & Johnson Surgical Vision, Inc.製の CATALYS プリシジョン レーザーシステムを用いて本手術を行っています。本装置は、厚生労働省の認可を受けており、質の高い治療を提供する最新のフェムトセカンドレーザー白内障手術装置です。



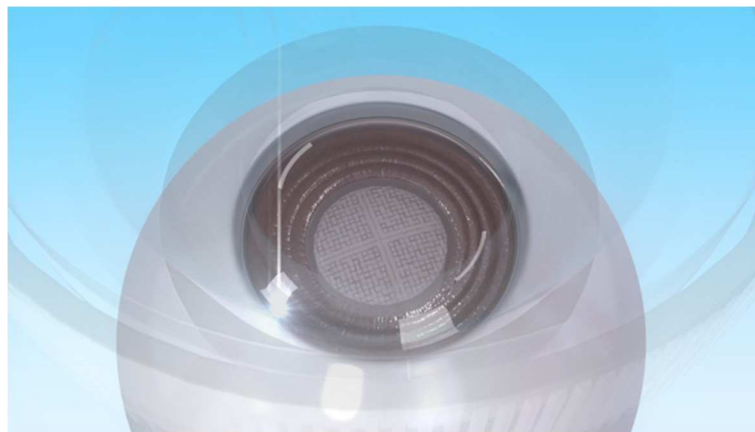
フェムトセカンドレーザーを用いた白内障手術/手術手順

フェムトセカンドレーザーを用いた白内障手術は、従来の白内障手術工程の一部をレーザーで行う手術です。

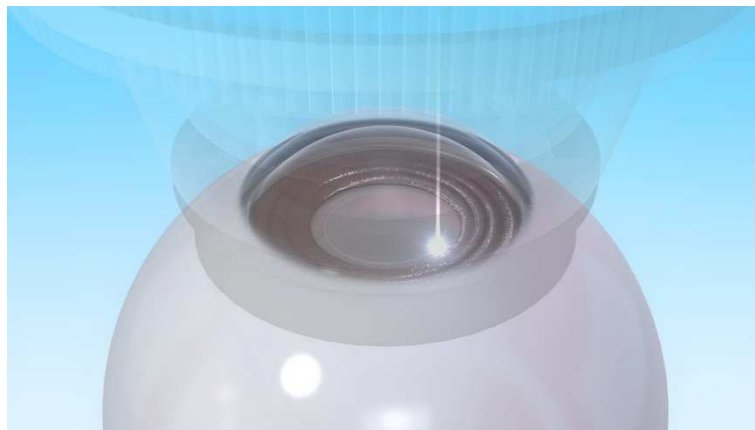
1. 三次元光干渉断層画像診断装置 (3D-OCT) を用いて眼の構造を高精度に読み取り、最適な手術計画を設計します



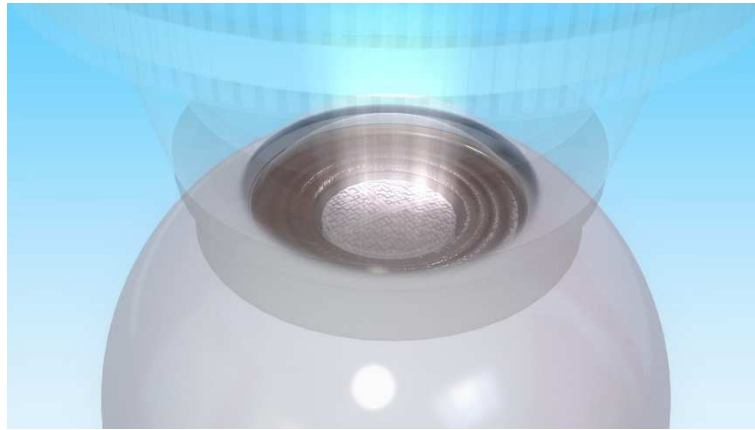
2. レーザーを用いて角膜に手術器具の通路を作ります



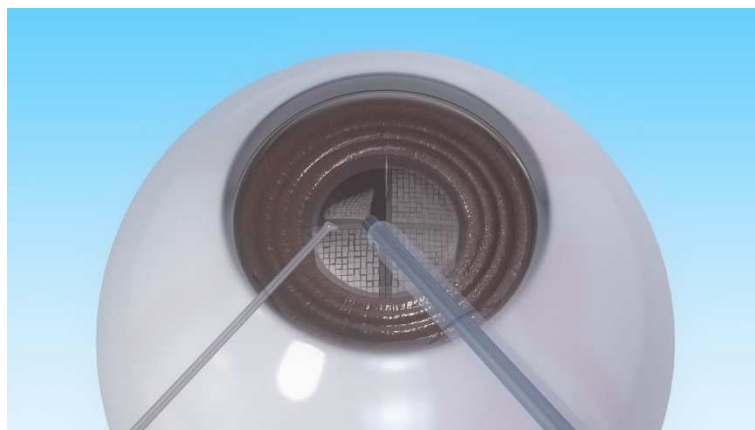
3. レーザーを用いて水晶体の袋の上部を円状に切開します (前囊切開)



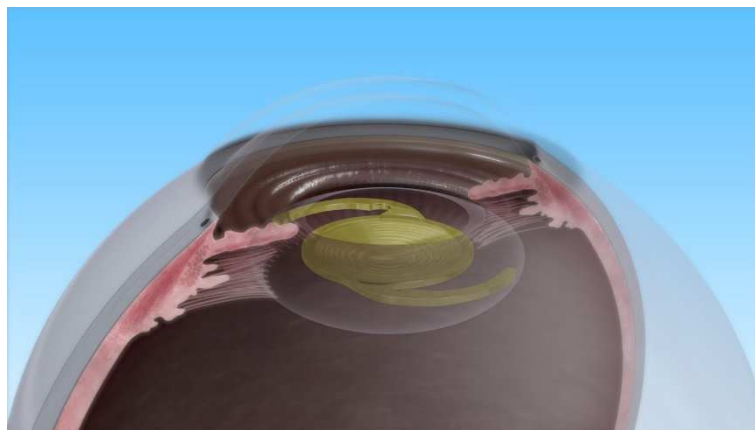
4. レーザーを用いて水晶体を分割します。



5. 従来の白内障手術同様、超音波で粉碎しながら濁った水晶体を取り除きます



6. 吸引除去した水晶体の袋に眼内レンズを挿入して終了です



フェムトセカンドレーザーを用いた白内障手術/費用

フェムトセカンドレーザーを用いた白内障手術は自由診療（健康保険の対象外）となるため、診察、検査、手術、入院に要する費用はすべて自己負担となります。価格は挿入するレンズの種類によって異なります。

- **多焦点眼内レンズ（3焦点）**

片眼：682,000円（税込）

- **多焦点眼内レンズ（2焦点）**

片眼：638,000円（税込）

- **単焦点眼内レンズ**

片眼：429,000円（税込）

※入院される場合は別途入院費用が必要となります。

◆医療費控除の対象です。確定申告時まで領収書は大切に保管してください。

◆民間保険会社から給付金がある可能性があります。詳しくは加入している保険会社にお問い合わせください。

● 当院では以下の多焦点眼内レンズを採用しています。

1. TECNIS Synergy/テクニス シナジー
2. Clareon PanOptix/クラレオン パンオプティクス

フェムトセカンドレーザーを用いた白内障手術/留意点

眼の状態によっては、レーザーによる手術が適していないと判断し、通常の白内障手術を選択する場合があります。

眼内レンズの種類と選び方（多焦点眼内レンズとは）

近年の白内障手術では、患者様のニーズや手術後のクオリティーオブライフ（QOL）向上が重要視されています。当院では患者様の仕事や日常生活に合わせて最適な眼内レンズ選択を行うことができるよう、多焦点眼内レンズを採用しています。

通常の単焦点眼内レンズは1つの焦点にのみピントが合うのに対し、多焦点眼内レンズは遠くから近くまで、広い範囲にピントを合わせることができるため見え方が異なります。



しかし眼内レンズにはそれぞれ特性があり、デメリットのない100%完璧なレンズは存在しません。ご自身のライフスタイルと照らし合わせて、最適な眼内レンズ選択を行っていただきたいと考えています。当院で白内障手術を受けられる方には必ず適応検査を受けて頂き、検査結果に基づいて相談させて頂きながら最終的なレンズ選択を行います。折角多焦点眼内レンズをご希望されても、他の眼科疾患など様々な理由で「おすすめできない」と判断する場合がありますので、ご了承ください。

多焦点眼内レンズのメリット

- 広い範囲にピントを合わせることができるため、日常生活でメガネを装用する頻度を減らすことが可能です。仕事や趣味、スポーツなどでできるだけメガネをかけたくない方には、好ましい眼内レンズです。

多焦点眼内レンズのデメリット

- コントラスト感が低下する可能性があります



- 夜間運転時などに対向車や街灯の光が眩しく見えることがあります
(※時間の経過とともに改善されると言われています)



- 術後視力の立ち上がり方には個人差があります。多焦点眼内レンズは単焦点眼内レンズよりも複雑な構造であるため、視力が安定するまでには順応期間があります

ご不明な点やご質問などございましたら、お気軽に眼科スタッフまでお声がけください